

大洲市民文化会館新築工事 実施設計概要版

1. 事業概要

(1) 敷地

所在地: 愛媛県大洲市東大洲198 番地 外
敷地面積: 16,780.83㎡

地域地区: 都市計画区域
用途地域: 近隣商業地域(本体施設)、
一部第1種住居地域(駐車場)

(2) 建築概要

建築面積: 3755.86㎡ 最高高さ: 28.2m
延床面積: 5639.15㎡ 最高軒高: 25.7m
(内部: 5284.57㎡、外部: 354.58㎡)
階数: 地上4階

構造: 鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造)
駐車台数: 284台

(3) 事業スケジュール

基本設計: 令和5年4月～令和6年2月
実施設計: 令和6年3月～令和7年3月

工事期間: 令和8年度～令和10年度
オープン: 令和11年度



図1. 全体のイメージ

2. 基本方針(コンセプト)

伊予の小京都と呼ばれる大洲の城下町は、その歴史の面影の中に現代性が織り交ぜられ、大洲らしさのある「まちの賑わい」が広がっています。この大洲らしさを引き継ぎ、「大屋根」の下に市民みんなの居場所をつなぐ「おおず回廊」をつくります。(図2)

「おおず回廊」は活気に満ちた市民活動が賑わいとなって現れる城下のまちなみのような空間になります。その賑わいは大屋根の軒下から周辺に広がり、市民活動があふれる大洲のまちづくりにつながります。(図3)(図4)

今後ますます多様化・高度化する市民の文化芸術活動に柔軟かつ確に対応でき、市民の日常的な交流や文化情報発信など、「文化芸術と市民交流」拠点施設の整備を進めるとともに、脱炭素社会の実現に向け、環境負荷の大きい公共建築物のライフサイクルコストの縮減のため、施設のZEB化(ZEB Ready)の認証取得を目指しています。

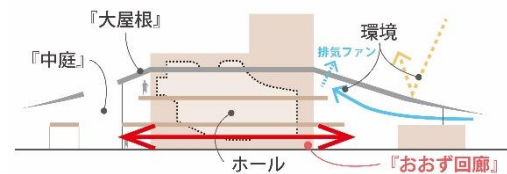


図2. 大屋根と「おおず回廊」の断面イメージ

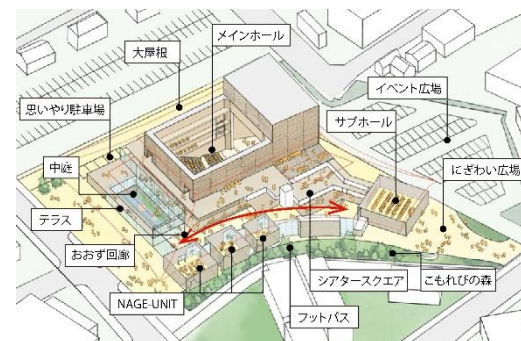


図3. 大屋根の下に広がる「おおず回廊」



図4. 「おおず回廊」のイメージ

3. 建築計画

(1)大洲らしさ

①大屋根

- ・緩やかな勾配を持った大屋根の架構を活かし、パッシブ手法(*1)、アクティブ手法(*2)を用いた、環境に親和した(*3)ホール施設をつくります。
- ・ロングスパンの大屋根は柱が少なくなり、杭や基礎の躯体量が抑制されます。(図5)
- ・富士山をイメージし、圧迫感を抑え、富士山との借景にも映えます。(図6)

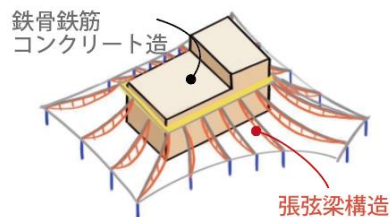


図5. 安心安全な大屋根

②中庭

- ・カフェ、キッズコーナー、テラス等を中庭まわりに配置し、多世代の市民の居場所をつくります。(図7)
- ・ミニコンサートとしての利用など、市民が気軽に利用できる空間とします。



図6. 新しい大洲の風景

③外構

- ・にぎわい広場：ベンチ等を設置し、市民の憩いの場を整備するとともに、子ども達が自由に遊べる空間とします。
 - ・イベント広場：屋外イベント場や大型バスの待機スペースとしても利用できます。
 - ・こもれびの森：散歩道を整備します。
 - ・エントランス前広場：総合福祉センターと連携します。
- また、車寄せのスペースを確保し、雨天時の利用に配慮します。(図8)

(2)環境親和型

- ・大屋根とホールの特性を踏まえた環境親和手法により、一次エネルギー消費量を50%以上削減(ZEBReady)します。(図9)

(3)防災

- ・全てが見通せる大屋根の空間は、万が一の洪水時には上階へ、災害(火災)時には屋外のオープンスペースに素早く避難が可能な施設となります。(図10)
- ・防災備蓄倉庫は2Fのエレベーター付近に配置します。

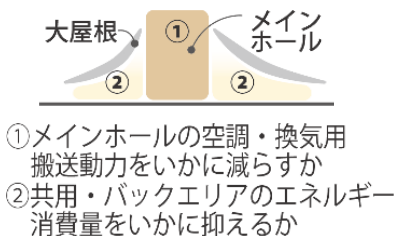


図9. ZEB Ready認証のポイント

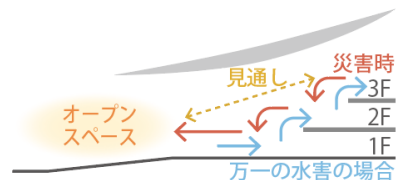


図10. 避難時に見通しが良い空間



図7. 中庭のイメージ



図8. エントランス前広場のイメージ

- (*1):太陽光、風といった自然のエネルギーを機械設備を使わずに利用する設計手法
- (*2):機械設備を効率的に組み合わせて消費エネルギーを抑える設計手法
- (*3):人間と地球環境との関係に調和をもたらす建築を目指す

3. 建築計画

(4)おおず回廊

- ・回遊性が高く、様々な活動の場がまちの中の風景のように表れる活気のある空間となります。(図11)
- ・ピクチャーレールなどで展示ができるようにします。

①NAGE-UNIT

- ・かつての「ナゲ」が治水対策や川舟の停泊地など、生活の拠り所であったように、活動を生み出す小さなコーナーを「おおず回廊」に連続して張り出します。(図12)

②シアタースクエア

- ・大洲城の石垣を醸し出し、本丸テラスから大洲城を望みます。(図13)
- ・カウンターやテーブルを設け、憩いの場を創出します。

③サイン

- ・大洲の街で出会う多様な形、色、素材をモチーフとしたデザインとし、街のアイデンティティをサインに活かします。

④大洲産材

- ・ベンチや手摺など、手に触れる部分に大洲産の木材を使います。
- ・小さな伊予青石を床やカウンターに埋め込み、大洲らしさがある施設を目指します。

(5)メインホール(639席)車いす席4席、多目的室6席

- ・音響反射板を備えたプロセニウム式のホールとします
- ・バルコニー席のあるコの字型の客席配置は、舞台だけでなく客席間での視線の交錯をつくりだし、ハレの場としての高揚感も高めるホールとします。(図14)
- ・全ての客席を舞台から25m以内に配置し、演者の息づかいまで感じられる親密感の高いコンパクトなホールとします。(図15)

(6)サブホール(135席)

- ・発表会など、小ホールとしての利用が可能です。(図16)
- ・平土間形式では、リハーサル、練習、会議、展示、楽屋利用、避難所利用など、さまざまな利用に対応できます。

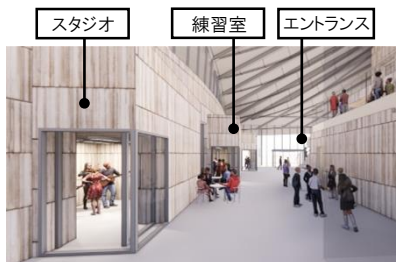


図11. おおず回廊のイメージ

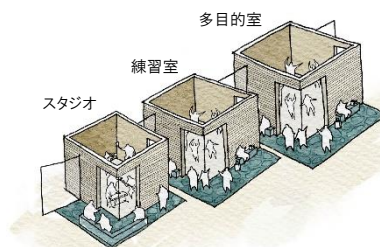


図12. NAGE-UNIT



図13. シアタースクエアのイメージ

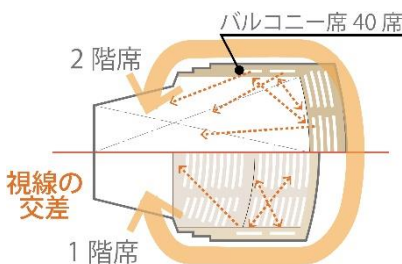


図14. 客席配置



図15. メインホールのイメージ



図16. サブホールのイメージ

4. 配置計画

左折のみ(イベント時)

軒下スペース

建物外周に沿って低い軒下をつくり、市民の憩いの場となるオープンスペースとすることで、どこからでも訪れやすい開かれた施設をつくりだします。日常的に誰でも気楽にフットパス(散歩道)としても利用できます。

にぎわい広場

サブホール

第1駐車場(99台)
イベント広場

こもれびの森

散歩道

総合福祉センター

横断歩道

横断歩道や歩行者専用通路を設け、歩行者が安全に行き来できるようにします。

おもいやり
駐車場
(2台)

メインホール

中庭

エントランス前広場

エントランス

総合福祉センターと向き合うエントランスは、一体となって文化芸術活動を生み出すと共に、市道側からアクセスしやすい配置となります。

フライタワー

フライタワー(*)は機能的な高さを確保し、南側に配置します。近隣への日照にも配慮し、まちのランドマークとなります

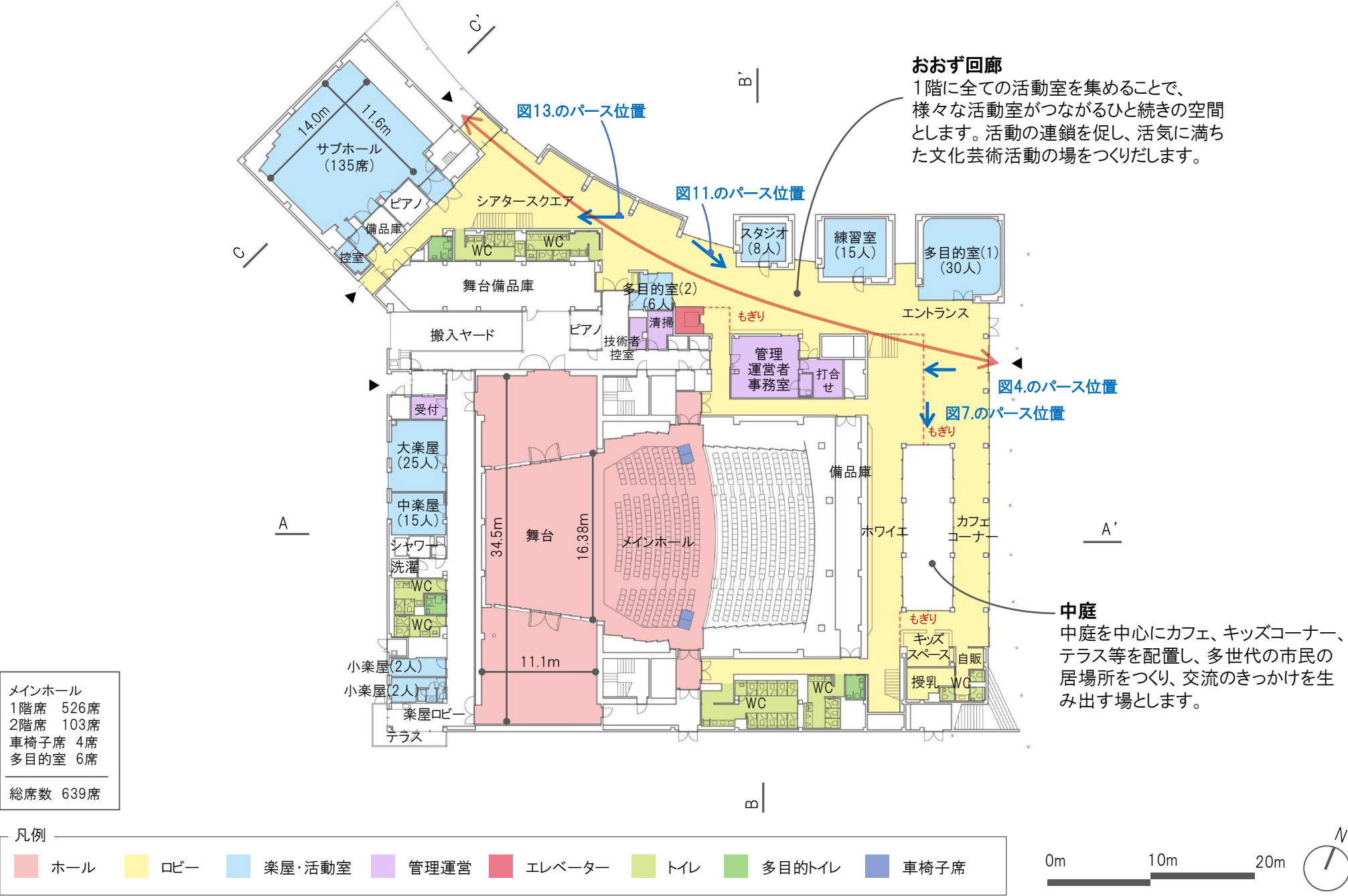
(*):舞台上部にあるタワー状の空間

おもいやり駐車場(3台)

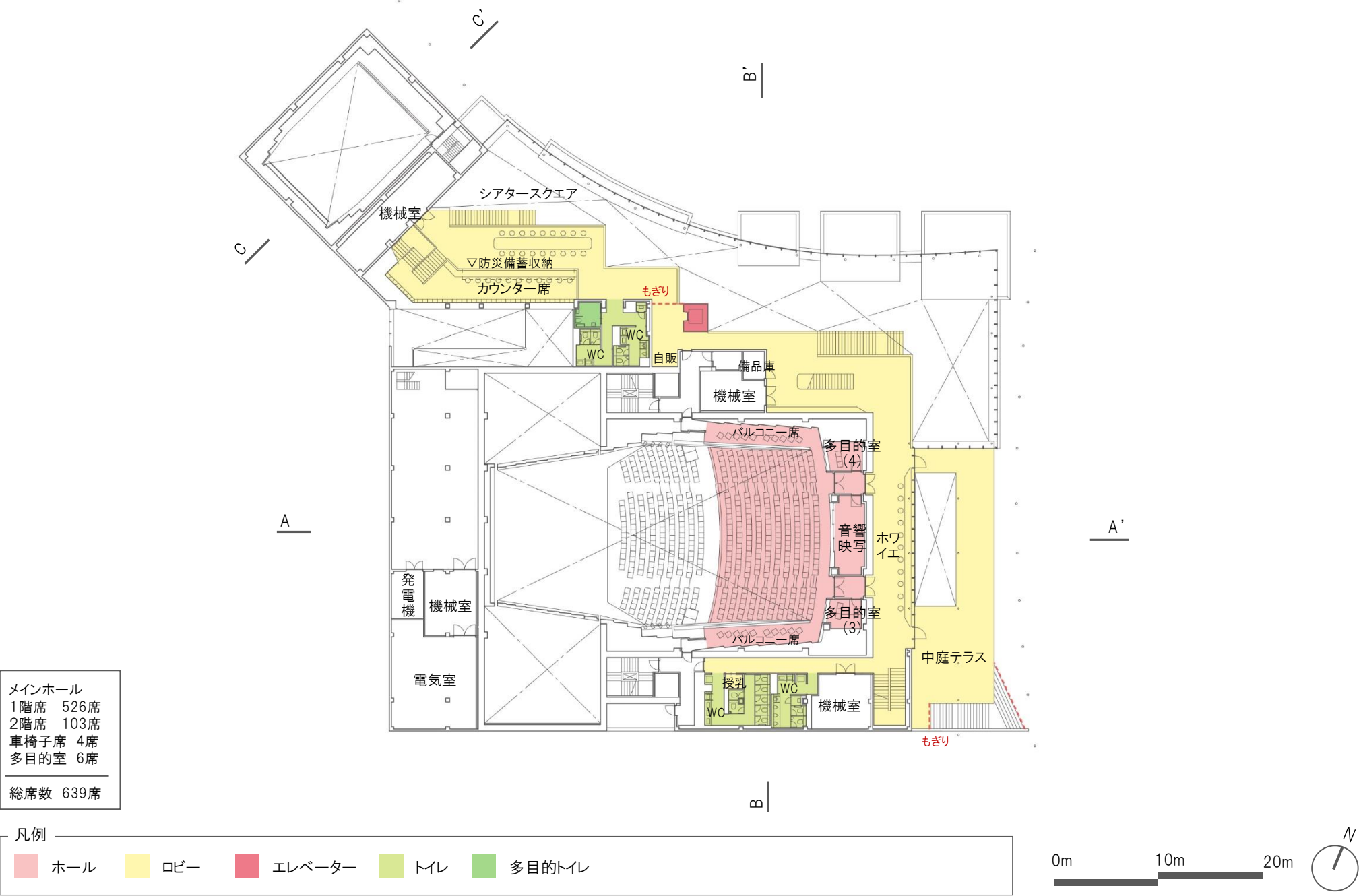
凡例

ホール ロビー 楽屋・活動室

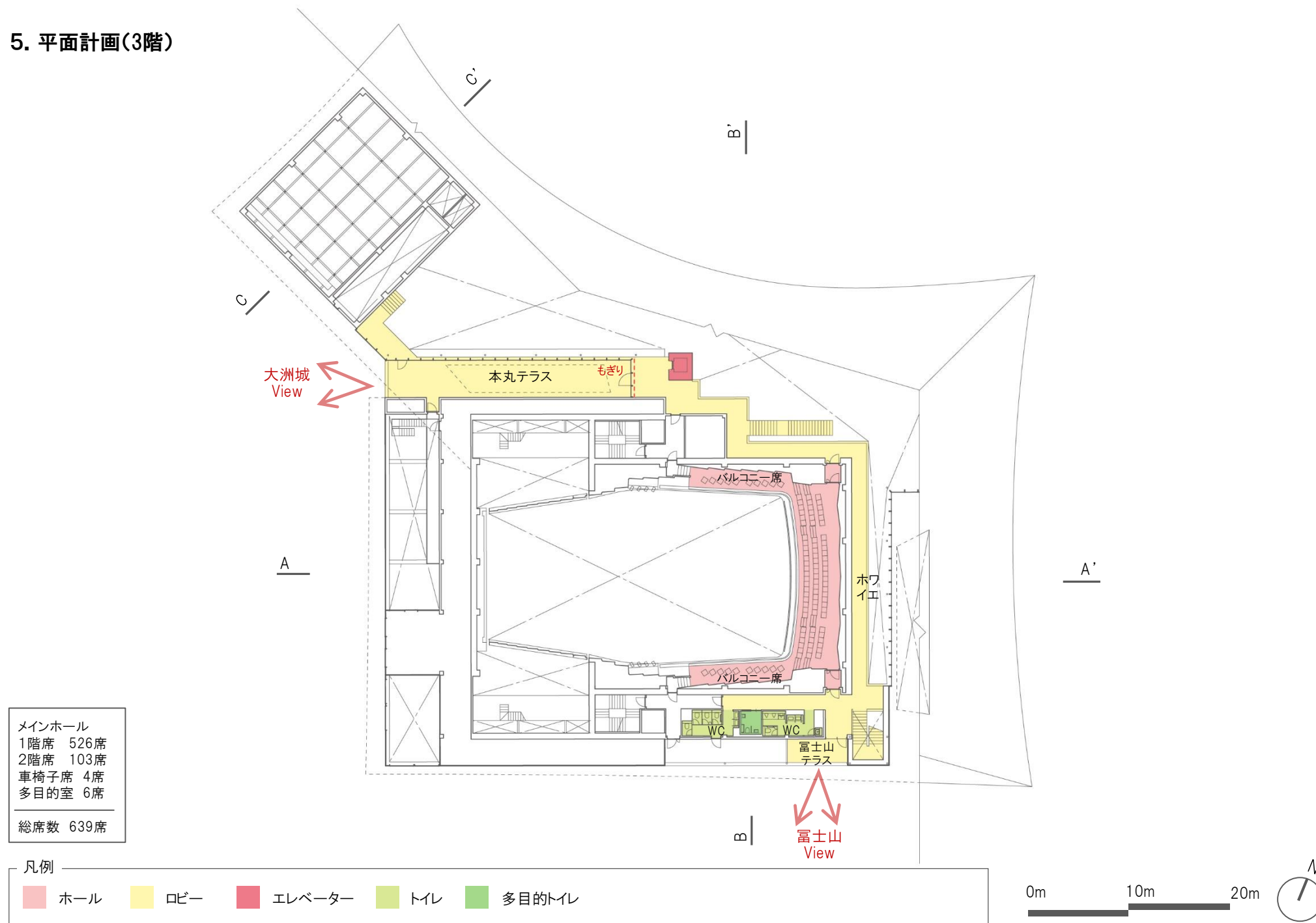
5. 平面計画(1階)



5. 平面計画(2階)



5. 平面計画(3階)



6. 断面計画

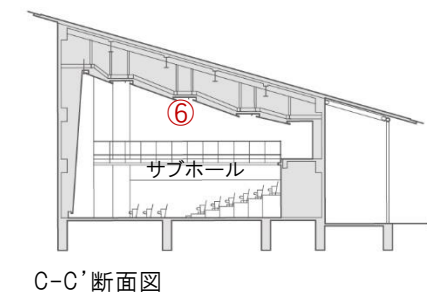
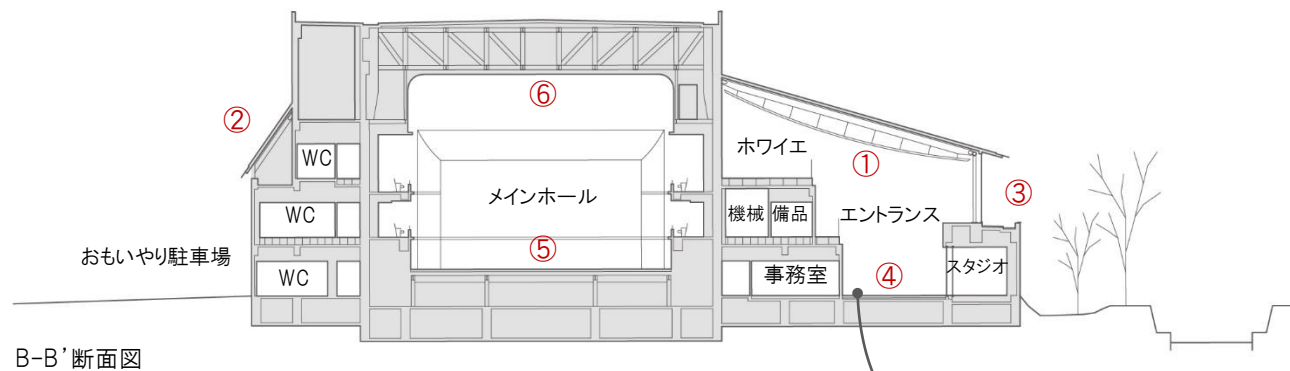
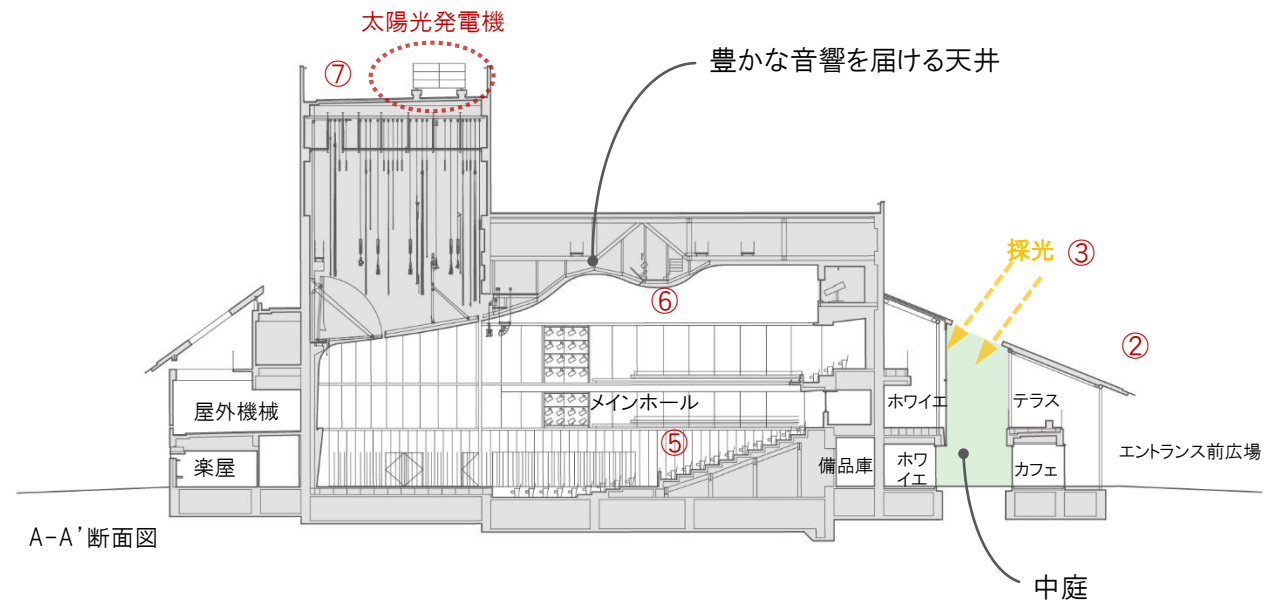
ZEBを実現するための技術手法

パッシブ手法

- ①エアバリアによる大断熱・換気
- ②庇による日射遮蔽
- ③ハイサイドライトによる自然採光

アクティブ手法

- ④大屋根下の居住域空調
- ⑤ホール客席の居住域空調
- ⑥照明器具のLED化
- ⑦太陽光発電



過去の浸水レベルより高い位置を1F床レベルとします

0m 10m 20m